

大雪山

1 概況

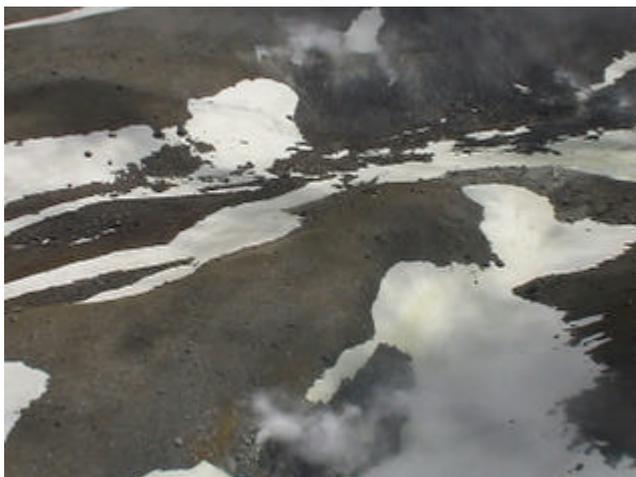
上空からの観測の結果、火山活動に異常は認められませんでした。

2 上空からの観測結果

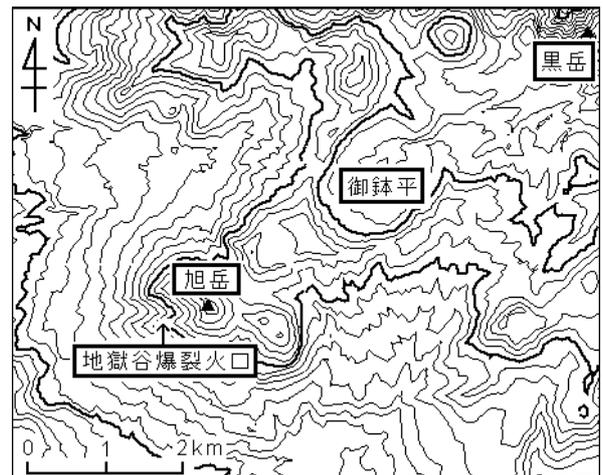
6月29日に北海道開発局の協力を得て上空からの観測を実施しました。山頂付近が雲に覆われていたため、地獄谷爆裂火口を低空から観察できた程度で、御鉢平カルデラを含む山体全体を観測することはできませんでした。

地獄谷爆裂火口

目視による観察では、爆裂火口の火口底に点在する数カ所の噴気孔から白色の噴気が認められました。噴気の高さは最大で30m程度でした。噴気活動はこれまで知られている状況と比べて大きな変化はありませんでした。



南東側上空から撮影した地獄谷爆裂火口



大雪山周辺図

参 考

大雪山は約20以上の成層火山や溶岩ドームからなり、うち8峰は環状に配列しています。この中央には小型のカルデラ(御鉢平(おはちだいら)、径2km)があります。最高峰の旭岳は御鉢平カルデラの南西方に最も新しく噴出した成層火山で、大雪山火山群の中では最も大きく、西方に広く溶岩を流出させました。旭岳の西斜面には、西に開いた馬蹄形の火口(地獄谷)があり、火口底には活発な噴気孔が多数あり、硫黄が採取されたこともあります。最近3000年間では顕著なマグマ噴火は起こっていませんが、最新の水蒸気爆発は250年前以降と考えられています<日本活火山総覧(第3版)(気象庁編2005)による>。